

埼玉県議会議員

かとう すえかつ

平成26(2014)年 冬号

# 加藤 末勝

# 県政報告

県政へ! 市政の太い架け橋に

〒356-0004 ふじみ野市上福岡2-2-5  
TEL・FAX:049-261-2829

発行 埼玉県議会自由民主党議員団

## 県議会12月定例会

# がん対策条例制定

県議会12月定例会は12月2日に開会。20日に全日程(19日間)を終え閉会しました。

今定例会では、有間ダム(飯能)の法面崩落箇所の復旧や農業用水施設の復旧など、今年多かった大雨や台風による災害復旧に係るもの、さらに、県立久喜図書館の耐震化補強に向けた改修設計など、補正予算(一般会計)1億4,478万6千円の計上を決めました。

また、市町村への権限移譲を進める一環として、パスポートの発給事務を49市町村に拡大。26年4月から飯能市、7月から杉戸町、10月から上尾市、入間市、鶴ヶ島市、伊奈町、宮代町でスタートすることになりました。

さらに県農業大学の移転(鶴ヶ島市から熊谷市へ)に伴い条例の一部を改正した他、自民党議員団が提案した「がん対策推進条例」が、全会一致で採択されました。

## 第37回全国育樹祭開催

第37回全国育樹祭が本県において、11月16日、17日に開催され出席しました。森を守り育てることの大切さを普及するため、昭和52年から行われている全国育樹祭ですが、本県での開催は初めてです。



16日には金尾山県有林(寄居町)にて、昭和34年の全国植樹祭において昭和天皇・香淳皇后がお手植えになられたヒノキを皇太子殿下にお手入れ(土壌改良)いただきました。17日(日)には彩の国くまがやドーム(熊谷市)にて記念式典を開催。皇太子殿下のおことばをいただいた他、緑化功労者への表彰や緑の少年団の活動発表、俳優の市村正親さんによる久喜市出身で日本初の林学博士・本多静六の功績紹介などが行われました。

第10回全国植樹祭は昭和34年4月5日に、金尾山(寄居町)で開催され、15,200本のヒノキが植樹されました。



昭和天皇  
お手植え。



両陛下をお出迎えする人々。

## がんセンター 新病院完成

12月30日オープン  
1月6日外来診療スタート



完成記念式典にてテープカットの様子(11月30日)。

県立がんセンター新病院が完成し、11月30日に完成式典が開催されました。

新病院の特徴は、「高度先進がん医療を実践する病院」と「日本一患者と家族にやさしい病院」の2つ。敷地内は自然林を最大限残しつつ、駐車場や通路などに植樹を行い、「森の中にある人にやさしい高度医療機関」を目指しています。さらに、災害対策および省エネ、省CO2対策も充実させた施設となっています。



南東側から見た新病院の外観



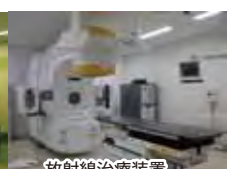
2層吹き抜けの大空間「ホスピタルストリート」



放射線治療装置  
(Novalis Tx)



内視鏡手術支援ロボット  
(ダ・ヴィンチ)



放射線治療装置  
(Tomo HDシステム)



# 地域の声を県政に届ける 一般質問 質問を展開

12月9日、県議会一般質問を行いました。



## 東京オリンピック開催に向けて 観光振興のチャンスに！

**加藤県議**

県内では埼玉スタジアム2002でサッカー、川越市の霞が関カンツリー倶楽部でゴルフ、朝霞市の陸上自衛隊朝霞訓練場で射撃の3競技、パリンピックでも射撃競技が予定されており、多くの観光客の来県が見込まれる。世界から注目されるこんなチャンスはめったにない。「埼玉を世界に向けてPR」する機会を、観光振興と埼玉の魅力発信に結びつけるべきと考え、どのように対応していけるのか伺いたい。

**産業労働部長**

第一に外国人観光客の受け入れ環境の整備。今年5月に立ち上げた実行委員会や市町村と連携し、おもてなしの方法などを県民に広めていく。第二に魅力的な観光コースの創出。伝統的な観光地とアニメやグルメ、県産品などを組み合わせた周遊ルートをつくり、ホームページやフェイスブックで徹底的にPRする。第三に「食」の魅力の紹介。極上グルメを提供する「埼玉S級グルメ店」の認定作業を進めている。「埼玉」の魅力を発信し、観光振興に努める。

## 商店街の活性化について

### 街バルで商店街再生を！

**加藤県議**

商店街の再生は重要な課題であり、商店街が活性化しなければ、街そのものの存在



が危ぶまれると言っても過言ではない。

本年2月、地元ふじみ野市上福岡駅周辺地区で「ふじみ野「福」バル」を市・商工会・商店会など地域が一体となって実施。49店舗が参加し、3日間で700人を超える人たちが食べ・飲み歩きを楽しんだ。「第2回ふじみ野「福」バル」(11月14日～17日)はエリアも拡大させ実施。その結果、参加店舗数は90店舗、参加者は1千100人を数え、街中は大いにぎわった。ふじみ野市の商工会や地域の商業者たちは、今後の事業継続に大きな意欲を示している。

この街バルイベントを県内に広め、定着させていく必要があると考える。今後どのような支援を行っていくのか伺う。

**産業労働部長**

街バルは雇用創出基金を活用し昨年度は3地区で、今年度は10地区に拡大した。拡大していく支援策としては、第一に市町村、商工団体、商店会の方々に他地域の街バルの楽しさや有効性を体感する機会の提供。第二に、先進地域から講師を招き街バルのノウハウを伝えること。第三に、地域振興センターが組織づくりに協力するとともに、経費の一部支援も有効であり継続していきたい。

定着の支援策として、街バルにより多くの方が参加されるよう県の広報媒体やミニコミ誌、駅でのPRなど広域的な広報に力を注いでいく。

## 地元問題について

### 旧福岡高校の跡地利用について

**加藤県議**

統廃合で閉校した県立高校16校のうち、9校の利用策が決まっていない。旧福岡高校にいても、その9校に含まれている。現在、

施設は県立ふじみ野高校が管理を行い、体育施設は一般に開放。土・日曜日には、地元のスポーツクラブ等が盛んに練習をしている。

一方、校舎棟はほとんど利用されていない。これらの施設は、ふじみ野市にとっても大変貴重なもの。地域住民からも高い関心と期待が寄せられている。これまでの検討経過と今後の跡地利用について伺いたい。

**教育長**

県では、未利用となる土地・建物ではある限り公共的な活用を行うこととしている。旧福岡高校の跡地について、県内部での意向調査では、具体的な利用希望はなかった。ふじみ野市では市民を交えて跡地利用について検討されていると聞く。地元の意向を踏まえながら、有効活用について検討していきたい。



※再質問で検討のスケジュールについて明確な回答を求めましたが、県は示すことができませんでした。今後の活用については、地元の方々と相談しながら県に提案していきたいと考えています。

## 新河岸川の早期整備について

**加藤県議**

「水辺再生100プラン」の整備がきっかけとなり、新河岸川では「舟運・ふじみんの郷」という河川愛護団体が発足し、11月24日にも多くの方々が参加し「清掃活動」が行われた。新河岸川はみんなが集まり、水辺に親しみやすい



河川になった。

一方で、その下流の福岡橋付近の区間に未整備箇所が残っており、洪水時の安全を確保するため、一日も早く整備を進めていただきたい。

**県土整備部長**

未整備区間の見直しは、平成26年1月に堤防の整備工事に着工し、3月末の完成を目指す。

## ふじみ野市内の浸水対策について

**加藤県議**

市内の雨水排水は、「川越江川」と言われている江川流域都市下水路のほか、公共下水道福岡江川幹線、砂川堀雨水幹線を通して新河岸川へ排水している。

今年10月の台風26号では、川越江川が新河岸川に合流する元福岡地区をはじめ、市内各地で浸水被害が発生した。浸水対策は河川を管理する県と、雨水排水を担う市が連携して適切に対応して行くことが必要だ。県の見解を伺いたい。

**県土整備部長**

県と市が連携し、河川と下水道の整備を効果的に組み合わせることが重要。今回の浸水被害を踏まえて、事業調査協議会を設置し、浸水対策に取り組んでいく。

## 一般質問全項目(12月9日)

- 九都県市首脳会議を踏まえた「福島県への復興支援」に関する本県の取組と意気込みについて……………(知事)
- 東京オリンピックの開催に向けて
  - (1) 九都県市との連携について……………(知事)
  - (2) 青少年に夢を……………(教育長)
  - (3) 観光振興のチャンスに！……………(産業労働部長)
- コージェネレーションの導入について……………(総務部長)
- ビッグデータの活用による県政の推進について……………(企画財政部長)
- 今後の公共事業の発注について……………(県土整備部長、総務部長)
- 商店街の活性化について……………(産業労働部長)
- 地元問題について
  - (1) 旧福岡高校の跡地利用について……………(教育長)
  - (2) 新河岸川の早期整備について……………(県土整備部長)
  - (3) ふじみ野市内の浸水対策について……………(県土整備部長)

※一般質問の全内容ははじめ県議会の詳細は県のホームページを参照ください。  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai/>